



海事資料収蔵庫のボランティア活動

三浦, 敏夫

(Citation)

海事資料館研究年報, 31:20-22

(Issue Date)

2003

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81005782>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81005782>



海事資料収蔵庫のボランティア活動

三 浦 敏 夫 (機関科1期生)

昨年5月25日(土)恒例となっている開学祭に合わせて白鷗会・深江同窓懇親会が開催されました。当日は晴天にも恵まれ多数の卒業生が参加、例年より盛況でした。旧友との久しぶりの再会、お互いに酌み交わすビールやお酒が適量入り、少し気が大きくなって和やかに談笑していたところへ、久保図書館長が笑みを浮かべて話しに見え「海事資料館の収蔵庫にある資料を整理しデータベース化に協力して欲しい」との申し出がありました。よく聞くと、平成7年1月17日の阪神・淡路大震災で被害を受けた後、仮収納はしたものの埃にまみれほとんど手付かず未整理の儘だと言う。久保教授とは柔道部OB会の深道会ではしばしば話を交わし顔馴染みであったし私はほろ酔い気分も手伝って先生にOKの即答をしました。

久保教授の主催で、8月30日に第一回会合が開催され、その後も2～3度、中林正人君、天野俊夫君等と打ち合わせミーティングに参加しました。久保教授、石田教授、定兼教授、岩坂事務長、専門委員である松本名誉教授等に出席して貰い、此れまでの経緯やら作業の具体的進め方をお聞きしました。そして当時白鷗会の事務局長であった天野君と、私は機会を捉えてこの資料整理計画に白鷗会の会員へ協力を呼びかけて来ました。お陰で、自主的に参加して頂けるメンバーが次々と現れ、今ではE-1 中林正人君、高寄伸君、柴直延君、E-5 松浦昇君と私を含めて5人のボランティアが作業に取り組んでいます。

資料収蔵庫は運動場の西側、新明和工場に隣接し、震災後に建てられた応急のプレハブ構造、100平方メートル位ありエアコンも備わっております。天井が高く冷暖房の利きが多少よくありませんが資料が乱雑に山積しておりました。初めは何から手をつけたらよいか迷いましたが、真夏が過ぎ漸く涼風が吹き始めた平成14年10月

1日より週2～3日のペースで作業を開始しました。

最初は収蔵庫内の床を掃除し、作業台、椅子、筆記用具、虫眼鏡、ハンドランプ等を揃え、作業環境を整えました。又、掃除用具としては真空掃除機、マスク、ブラッシ、束子、サンドペーパー、金属磨き、錆止め油、ウエス、石鹼など逐次揃えて貰いました。手始めに船灯、信号灯等の掃除と整理から始めることにし、限られたスペースを出来る限り有効に活用する事にしました。埃を払って、金属表面の緑青を取り除きますと、60～70年の時空を飛び越え、当時の輝きと、年数を経た落ち着きを取り戻してくれました。これらの船灯や舷灯は量産ではなくて個別注文であったらしく、一つ一つが職人の手作り感があり心が込もっているような気がします。蝶番やネジ等の可動部はすり減って多少の損傷がありますが、少し手を加えれば使用可能です。骨董品としても十分に価値があると思います。数量も40～50個位ありますので、学術的に調査研究したい人にとっては十分に価値ある資料と考えられます。これまでにに行った品目を列記してみますと次の通りです。

- 1) 船 灯 類：約50ヶ、電気式、油式あり。
- 2) 船 箆 筒：約13、虫喰いの形跡あり、防虫剤を入れた。
- 3) 船大工道具：鋸、ちょうな(手斧)、^{まさかり}鉞、^{のみ}鑿、錐、墨壺、良く磨き金属部には錆止め油を塗布した。
- 4) 銀 食 器：コーヒーポット、ソースポット、スープポット、ナイフ、フォーク等、高価なものであり、保管に留意した。
- 5) 航海計器：ドライコンパス、サイドコンパス、時計、双眼鏡、ログなど。
- 6) 模 型 船：和船、帆船、機帆船、刳り舟

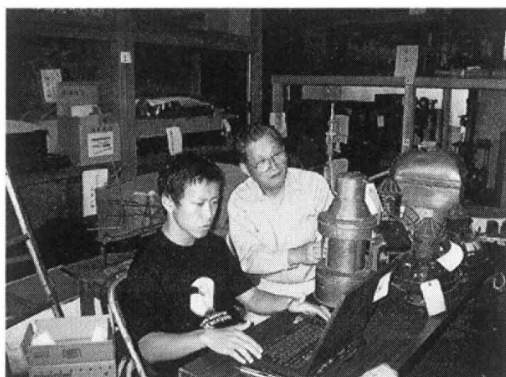
など。

- 7) 教材用模型：Stern tube & propeller shaft, Rudder stock, アンカーストック等。
- 8) 船体模型：船殻模型、艦首模型、木製ハーフモデル、ボートダビット等。
- 9) 機関模型：蒸気往復動原動機、汽罐、蒸気往復動ポンプ、操縦バルブ等。
- 10) 甲板機械模型：荷役用ウインチ電動型、操舵機等。
- 11) アンカー：石アンカー、木製アンカー、鉄製アンカー等。
- 12) ポスター、写真類、海図類
- 13) 計測計器：歪み計、Oscillator, calorimeter
- 14) その他：操舵輪、水桶、酒樽、木製枕、船形図板、奉納絵馬。

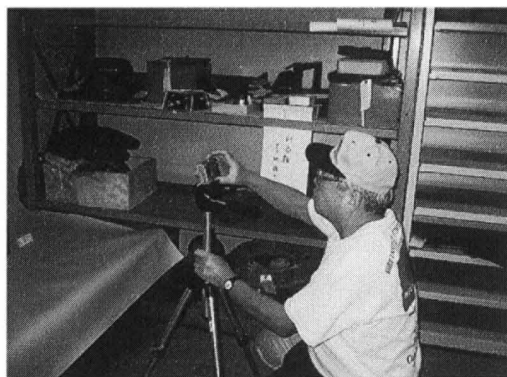
他にも数え切れない程の資料が眼に触れずに

残っております。どのように分類し、整理して行けば良いのか専門委員の方々に相談し、出来る限りの事を奉仕させて頂こうと思っております。私ども卒業生が資料の整理を始めて、途中3ヶ月程の夏休みで中断しましたが、既に1年2ヶ月以上も続けて参りました。現在はデジタルカメラによる撮影と収集品の由来として名称、寄贈者、収集場所、収集年月日、寸法、整理番号等を記録して、此をパーソナルコンピュータに入力しております。

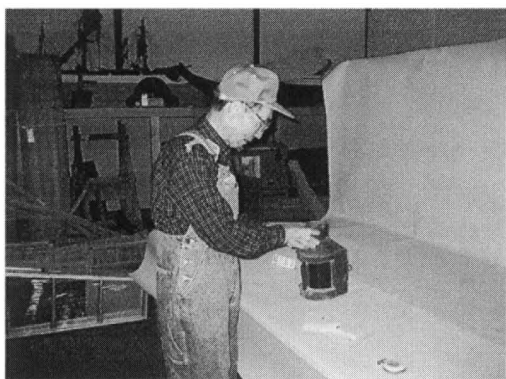
これらデータベース化作業は既に千点を越しました。残りどのくらい存在するのか定かではありませんが、あと少なくとも千点位は残っておるだろうと大学関係者のお話です。しかし、各種ポスター、写真、地図、パンフレット、古文書等は総て数の中に入っているか判然としておりません。これらは現在も次々と展示室や収蔵庫より発見されておりますので、データベース化だけでも後一年ぐらいは日数を要するものと思われます。



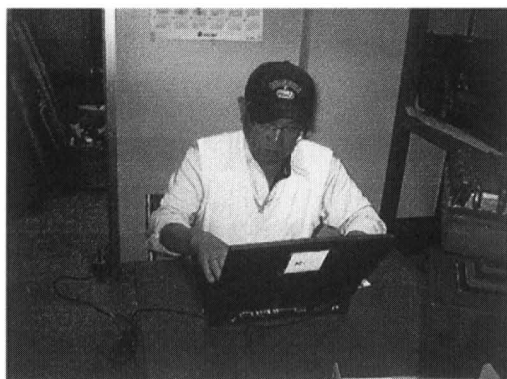
パソコンに入力中の柴君と学生



小型品やポスター類を撮影する中林君



船燈を撮影する筆者



パソコンに入力中の高崎君

この作業が神戸大学海事科学部の単なる資料館としてではなく、将来は博物館となり広く社会に公開されて役だって欲しいと願っております。「継続は力也」の言葉もある様に、私達より若い卒業生OBが私達の意志を継いでボランティア活動に参加され、資料館の更なる内容充実に貢献されることを希望致してやみません。

終わりにこれまでご指導を頂いた松木名誉教授、久保教授、定兼教授、又何かと細かく面倒を見てくださった岩坂事務局長、そして同窓生で且つボランティア仲間である柴直延君、高崙伸君、中林正人君、松浦昇君、授業の合間を縫って手伝ってくれた在学生にもこの場を借りて深く感謝します。